

献 辞

西牟田祐二先生は、2021 年（令和 3 年）3 月 31 日をもって本学を退職されることになりました。

西牟田先生は、1981 年（昭和 56 年）に京都大学経済学部を卒業後、1986 年（昭和 61 年）に京都大学大学院経済学研究科理論経済学・経済史学専攻博士課程を単位取得退学され、その後、1999 年（平成 11 年）京都大学博士（経済学）を取得されました。

西牟田先生は、1986 年（昭和 61 年）4 月東京大学社会科学研究所の助手に採用され、1988 年（昭和 63 年）4 月には本学経済学部助教授に着任され、1998 年（平成 10 年）には本学大学院経済学研究科教授に昇任されました。その間、1994 年（平成 6 年）には文部科学省在外研究員としてアメリカ合衆国およびドイツ連邦共和国において在外研究にたずさわられました。

西牟田先生は、本学の経済学部・経済学研究科における教育・研究・運営にご尽力され、多大の貢献をなされました。教育に関しては、本学経済学部においては経営史、国際経営史、経済史・思想史入門、社会経済学入門の授業を担当され、また大学院経済学研究科においては経営史、国際経営史の授業を担当され、常に高い評価を受けてられました。また、在任期間中には、経済学部演習において多数の学生を社会に送り出し、経済学研究科の指導生からは多くの大学教員など研究者を輩出されてきました。

研究面では、ドイツ自動車工業企業を中心とした世界の諸企業の経営史研究および多国籍企業化を含む国際経営史研究に傾注され、主著『ナチズムとドイツ自動車工業』（有斐閣、1999 年）、『語られざる GM 社—多国籍企業と戦争の試練—』（日本経済評論社、2020 年）ほか、多大の業績を残されてきました。

学会活動においては、経営史学会において幹事、『経営史学』編集委員、研究組織委員を務めたほか、社会経済史学会近畿部会世話係を務めるなど諸学会の発展に貢献されました。

学内においては、全学人権委員会委員、教育制度委員会委員、学生生活委員会委員、部局においては教科委員会委員長、図書主任など大学の運営にも多大な貢献をされました。

京都大学経済学会は、こうした先生の多年にわたるご功労に対する敬意と感謝の気持ちを込めて、『経済論叢』の月号を記念号として編集致しました。先生のゆかりのある方々から寄せられた論文を編んで、月号を先生にお贈りできますことは、私どものこの上ない慶びとするところであります。

先生が今後ともますますご健康で、学界のため、また広く社会のために、ご活躍なさいますことを心から祈念致します。

2022 年 4 月

京都大学大学院経済学研究科長 依田 高典